



～人と人とを心でつなぐ“医療コンサルティング”～

# C-plan 通信 2014・11月号

<http://c-plan.biz>

[info@c-plan.biz](mailto:info@c-plan.biz)

☎ 03-6280-4897

☎ 050-3588-6764

## ★患者さんから選ばれる医療を目指して★

「安心・安全・信頼」を得るポイントは良好なコミュニケーションです。

良好なコミュニケーション力を軸にあらゆる側面から組織風土を組み取り、新たな環境づくりに取り組み続けます。

常に問題意識を持ち続け、前向きに経営に取り組まれている企業様・医療機関を支援し私達が提供したサービスがクライアント様に寄与し、ひいてはその先にあるお客様・患者さんに喜んで頂けることが私達の喜びです。



## 今月の C-plan

朝晩の冷え込みがかなり厳しくなりました。  
体調管理には十分にお気を付けくださいませ。

株式会社 C-plan 社員一同

・医療従事者としての心構え  
・接遇の基礎  
・院内コミュニケーション  
・報・連・相  
・人材育成 ……等  
研修内容・コンサルティング内容・お時間・費用などお気軽にご相談ください

10月8日 茨城県  
県内クリニックにて  
継続研修



10月27日 宮城県  
県内クリニックにて  
継続研修スタート



目が輝いて  
います

真剣です

10月2日  
千葉県内薬局にて  
継続研修



参加型

10月24日青森  
県臨床研修医研  
修会



初めは緊張  
しています



## ◆医療事故◆

# 心臓に注射針を置き忘れ… 石巻赤十字病院の医療過誤を認定

2014.12.18 18:17 更新 産経ニュース

<http://www.sankei.com/affairs/news/141218/afr1412180037-n1.html>

宮城県石巻市の石巻赤十字病院で、県内の女性＝当時(53)＝が死亡したのは、救命措置の際の医療ミスが原因だとして、長女が病院側に3300万円の損害賠償を求めた訴訟の判決で、仙台地裁は18日、880万円の支払いを命じた。

市川多美子裁判長は判決理由で、心臓を覆う2層の膜の間にたまった体液を抜く救命措置のため、医師が注射針を刺したが置き忘れ、それが心臓に約1ミリの穴をあけて死亡につながったと認定。

「初歩的で極めて危険な過誤だ。残された貴重な時間を突然奪われた女性の苦しみは重大」と指摘した。

一方、女性が末期がんで余命が限られていたため「慰謝料の算定は、長期間の生存が可能な患者の場合と同様にはできない」とした。

判決によると、平成23年8月、女性は呼吸困難になり、病院に搬送された。

救命措置を受けたが、翌日死亡した。

## ◆感謝状◆

### 統合新病院に役立てて 「息子の供養」

2014年12月17日 中日新聞

<http://www.chunichi.co.jp/article/ishikawa/20141217/CK2014121702000047.html>

宮元陸市長から感謝状を受けた琴野正也さん(右)＝加賀市役所で



加賀市富塚町、農業琴野正也(まさなり)さん(67)が、市の病院事業に役立ててほしいと百万円を寄付した。

九月に長男雅弥(まさや)さん＝享年四十一＝を病気で亡くしたことがきっかけで、琴野さんは「(二〇一六年四月に開業予定の)統合新病院を住民にとって、いい病院にしてほしい」と願う。

東京で会社員をしていた雅弥さんは八月中旬、膵臓(すいぞう)にできるがんの一種「膵神経内分泌腫瘍」を発症していることが分かった。

珍しい病気で、雅弥さんの場合は進行が早く、東京の病院で一カ月半ほど闘病したが、帰らぬ人となった。

琴野さんは、病床で「故郷へ帰りたい」と話す雅弥さんの姿を見て「自分の家の近くにこういう病気の治療に対応できる病院があれば」と感じた。

市内で建設中の統合新病院の充実に向けて善意を寄せることで「息子の供養にもなり、建設中の病院を見るたび、自分や家族の心も和らぐ」と決めた。

市役所であった贈呈式で、琴野さんは宮元陸市長に百万円を渡した。感謝状を渡した宮元市長は「新病院事業へも役立てさせてもらおう」と話していた。



## ◆看護師不足◆

### 看護職員採用、半数の病院で目標下回る- 横浜市、13年度調査で判明

2014年12月16日 yahoo ニュース

[b.hatena.ne.jp/entry/headlines.yahoo.co.jp/hl?a...cbrn-soci](http://b.hatena.ne.jp/entry/headlines.yahoo.co.jp/hl?a...cbrn-soci) -

横浜市が市内の各病院の看護職員の採用状況などについて調査したところ、採用目標を達成できなかった病院が半数近くあることが明らかになった。同市の担当者は、目標を達成できなかった病院の約6割が200床以下だったとし、「中小病院の労働条件が大規模病院に比べて改善されていないのが未達成の要因ではないか」と分析している。【松村秀士】

看護職員の需給動向や看護師確保の取り組みなどを把握するため、同市は7月から8月にかけて、市内の134病院を対象にアンケート調査を実施。101病院から回答を得た。

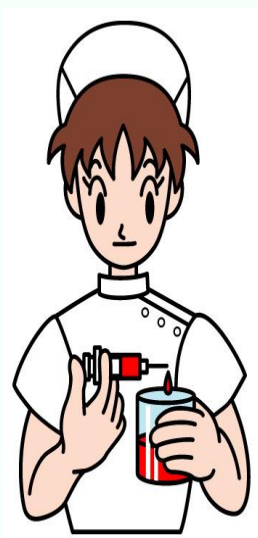
調査結果によると、101病院のうち48病院で、採用目標をクリアしておらず、計273人の看護職員が不足していた。目標を満たさなかった病院のうち、

不足人数が10人未満だったのは40病院、10—19人は5病院、20人以上は3病院だった。

看護職員が不足している病院に具体的な対応策を挙げてもらったところ、「臨時職員などを雇用して対応」が47.9%で最も多く、次いで「現在の職員で対応」(35.4%)などだった。

#### ■退職率、調査開始以降で最低水準

同市は、離職状況についても調査した。13年度の看護職員の退職率は、前年度比1.8ポイント減の12.5%で、調査を開始した07年以降、最も低い水準だった。院内保育施設を整備している病院は53施設(52.5%)あり、このうち4分の3以上が24時間保育を取り入れていた。同市の担当者は、「こうした取り組みの積み重ねが、退職率の低下につながっている可能性がある」としている。同市は今後、ホームページを使った求人情報提供に注力するほか、潜在看護師復職支援や看護専門学校への助成事業などを続ける方針だ。



お子さんを持つ看護師の働く環境にもっと目を向けてほしいと願います



## ◆心強いです◆

### 「定年後は引退したい」医師、わずか 14.5%、 「生涯現役」との声も

- エコミックニュース 2014 年 12 月 14 日

<http://www.zaikei.co.jp/article/20141214/226480.html>

- 高齢化によって、今後は「医師不足」が問題化されると言われる。中でも過疎化の進む地方や、産科、小児科などの医師不足は深刻だ。一方で、定年を迎えた後も、多くの医師が何らかの形で働き続けるつもりであることが、医師専門サイト「メドピア」の調査で分かった。

調査は今年 7 月、同サイト上で会員医師 7 万名を対象に実施。3818 件の回答が寄せられた。定年後の働き方として最も多かったのは、「病院で非常勤医として勤務する」で、32.3%を占めた。「体力的に元気であるかぎり、ボケ防止のために非常勤医で仕事を続けたいです(60 代、小児科)」や、「仕事量を減らしていくと思いますが、ゼロにはしないと思います。生活のことを考えて(30 代、呼吸器内科)」など、「元気なうちは自分のペースで仕事をしたい」と考える医師が多いようだ。「バイトで週 2 回くらいが理想」との意見もあった。次に多かったのは「仕事をしない(引退する)」で 14.7%。「悠々自適に暮らしたい」「趣味やボランティアに没頭したい」「責任を感じずに、気ままに暮らしたい」といった回答がみられた。しかし多くは「開業医なので、定年はな(12.3%)」、「病院で常勤医として働く(12.1%)」、「老人保健施設や特養施設など、病院以外の施設で働く(10.4%)」などのほか、「開業したい(4.3%)」「医療と関係のない仕事をする(2.5%)」「その他(11.4%)」など、定年後も何らかの仕事を続けるという意見だ。「40 代で開業して死ぬまで働こうと思っています(40 代、呼吸器内科)」という意見もあった。ある開業医は「年齢に応じて診療時間を減らし、長年診ている患者さんの在宅医療にシフトしている(60 代、一般内科)」という。また、将来は開業して、「人生の最後を地域医療に捧げたいと思っています(40 代、循環器内科)」など、高齢化にともないニーズが増加する「在宅医療」「地域医療」に貢献したいという声も目立つ。こうした医師らの「定年後の活動」が、地域の医療問題解決の糸口となる可能性もゼロではない。

## ～医療接遇～特別講座開講

フロの医療接遇  
アドバイザーが  
研修いたします

- ★医療に特化した接遇が知りたい！
- ★講師を目指しているけれど・・・
- ★自分自身のスキルを上げたい！
- ★組織内で広めたい！
- ★接遇向上委員会活動を活発化したい
- ★日頃の患者対応に自信が無い

弊社事務所にお越しいただき、講座を受けていただくスクール形式の研修です。医療機関はもちろん、個人での受講も可能です。

(受講回数・日程・ご予算など何でもご相談ください)



人と人をつなぐ

# 株式会社 C-plan

本社・営業部：

104-0032 東京都中央区八丁堀 1-7-7 八重洲レザンビル 7F

企画推進部

〒922-0811 石川県加賀市大聖寺南町ト 36-8 麻理ビル 204

TEL 03-6431-9241 FAX 050-3588-6764

担当：コンサルティング部 部長 清水 裕美